

施策名：高専発！「Society5.0型未来技術人財」育成事業

文部科学省専門教育課 03-6734-3347
senmon@mext.go.jp

分野 デジタル人材の育成・確保

総合戦略該当箇所 横 2 - 1 -(1)- ii

予算額 令和3年度当初一般会計 446百万円

- 特徴・ポイント
- ✓ 地域密着型・課題解決型・社会実装型など従来型の高専としての特長を活かしつつ、51国立高専 = 1法人の組織特性を最大限に活かす。
 - ✓ 高専機構本部が司令塔となり、社会の要請を踏まえつつ、機動的に実施体制の構築と事業管理を行う。
 - ✓ 企業、大学、研究機関等と幅広く連携し、事業への参画・支援を得て効果的な人材育成を目指す。

目的

- オール国立高専及び広範な企業・自治体・大学等との連携体制という全国規模の「面」(基盤)としての体制の下、高専だからこそできる人材育成の質的転換を図る。
- 特に防災・減災・防疫は近年喫緊の課題となっており、社会のレジリエンス強化を牽引できるエンジニアが必要とされている。また、ウイルス感染流行などのリスクに対応できるエンジニアの人材育成も行う。

概要

- 農水、エネルギー、介護・医工、マテリアル、防災・減災・防疫の5分野について高専が持つ研究シーズと地域課題のニーズのマッチングを行い、研究成果の社会実装を図る。
- 拠点校となる高専が複数高専と連携し、高専のリソースを有効に活用しながら一つの学問分野だけでは解決できないテーマ(社会課題)に対して、様々な分野の知見を生かしたアプローチで課題解決に結び付ける実践的な人材育成プログラムを開発する。

<期待される効果>

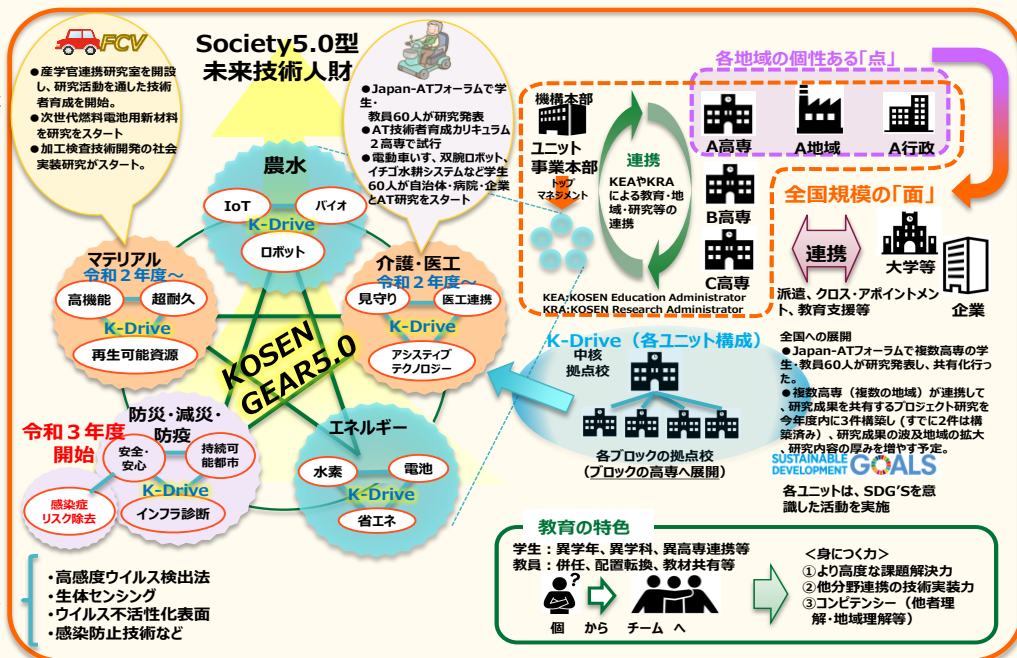
- 【教育】
社会課題の解決を通じた教育効果(高度な課題解決力、他分野連携の技術実装力、コンピテンシー)
- 【研究】
研究活動を通じた専門性の高度化、社会人基礎力UP、研究ネットワーク構築といった研究機能の強化
→Society5.0により実現する未来技術の時代をリードする、高専発！の「未来技術人財育成モデル」を開発・展開する。

<資金の流れ>



※独立行政法人国立高等専門学校機構運営費交付金の内数として配分

<対象事業のイメージ>



先行事例

先行事例① 鈴鹿高専

K-CIRCUITが牽引する高度先端マテリアル社会 実装研究・教育

共同研究推進センター

研究設備を自由に活用

産学官協働研究室

企業技術者が教員として就任
講義・研究指導を実施
研究資金の対拠共

研究室学生として参画
●卒業研究
●特別研究
●インターンシップ

研究スタッフとして参画
●研究業務
●学術情報提供
●外部資金獲得支援

研究運営支援
●会計処理
●教務手続
●研究業務

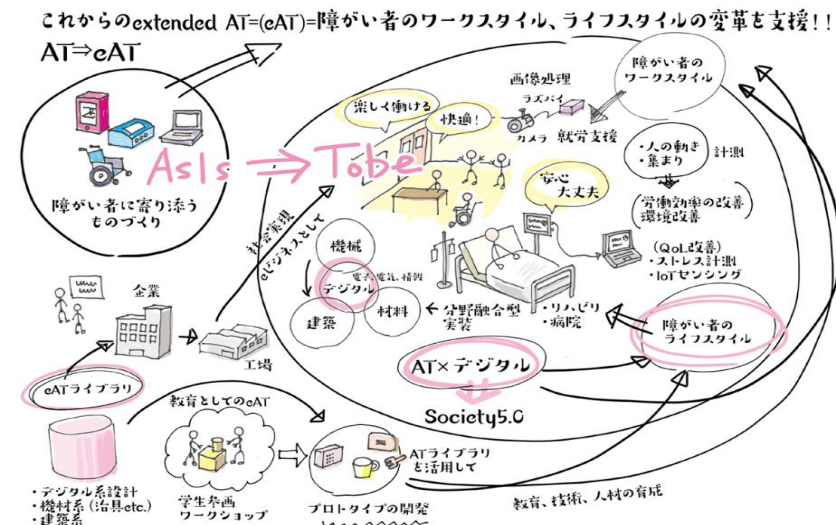
学生	教員	職員
●専攻科生 ●学科生	●機械工学科 ●生物応用化学科 ●電気電子工学科 ●材料工学科 ●電子情報工学科 ●看護教育科	●総務課 ●学生課 ●教育研究支援室

鈴鹿高専

- ✓高専連携ネットワーク内に、K O S E N連携社会実装技術イノベーション・リサーチセンター「K-CIRCUIT」を構築する。
 - ・企業ニーズに対応して最適な人材、設備を結集したチームを結成
 - ・教職員、学生、企業技術者など多様な人材によるオープンイノベーションの創出、研究成果の社会実装の実現を図る
- ✓先端マテリアルテクノロジーに精通した新素材開発イノベータを育成するためにセミナー等の育成プログラムを実施。

先行事例② 熊本高専

持続可能な地域医療・福祉を支えるeAT-HUB構想とAT技術者育成による共生社会の実現



- ✓障害者就労、医療リハビリ、健康寿命延伸等を支援する多品種・少量・カスタム型AT（アシティブ・テクノロジー）機器の社会実装・高度化研究・社会需要創造を支援する地域内での産学官連携体制の構築
- ✓高専における工学の専門技術に加えて、医療・福祉機関の関係者と連携をとりながら、当事者目線で、高齢者や障害者の現場のニーズを取り上げるATスキルの教育プログラムを身に付けたAT技術者の育成を推進